CLAUDE COMMUNITY TOKYO

ハッカソンのアイデアの作り方

公開
2026 年 11 月 5 日

著者
岡本 賢

この資料について

Built with Claude: Japan 2026 の参加者に向けて、案を出す前の準備と当日の考え方をまとめました。英語の引用は原文または掲載元で文言を確かめ、訳は本資料によるものです。図と例はすべて説明のための架空の例です。

アンバサダー個人による独自制作資料です。公式資料ではありません。

「調べたら、もうあった」。ハッカソンで案を考えると、多くの人がこの場面に出会います。この資料はその「もうある」をやめる理由ではなく、出発点として扱うための考え方をまとめたものです。

要点

- アイデアは、すでにある要素の新しい組み合わせです。ひらめきを待つより、材料を集めて関係を探すほうが確実に進みます。
- 机の上で考えた案は似たところに集まりやすく、最近の自分の「面倒」から始めた案は重なりにくくなります。
- 似たものが見つかっても、手遅れとは限りません。それが広がっていない理由が、あなたの案の中身になります。
- 当日のひらめきは、前の週に集めて寝かせた材料から生まれます。最後は 3 行で書き、埋まらない空欄を詰めます。

はじめに

ハッカソンで使える時間は限られています。案を決めるまでに半日かかれば、作って試す時間はその分だけ減ります。だからといって最初に浮かんだ案にすぐ決めると、会場の誰かと同じ案になりがちです。

この資料は、案の出し方を 8 つの原則にまとめます。手がかりにするのは二人の書き手です。一人は広告人のジェームス・W・ヤングで、1940 年の小さな本『A Technique for Producing Ideas』（邦訳『アイデアのつくり方』）でアイデアの作り方を説明しました。もう一人はスタートアップの投資家ポール・グレアムで、2012 年のエッセイ「How to Get Startup Ideas」で、よい案がどこから来るかを書いています。

各原則では、まず原典の考え方を紹介し、続けてハッカソンでの使い方、よくある失敗、その場で書く一行を示します。「ハッカソンでは」から後ろは原典をもとにした本資料の解釈で、原典がそう主張しているわけではありません。

アイデアは、組み合わせでできている

ヤングはアイデアをこう説明しました。

> an idea is nothing more or less than a new combination of old elements.
>
> 訳：アイデアとは、すでにある要素の新しい組み合わせにほかなりません。
>
> James Webb Young『A Technique for Producing Ideas』（Farnam Street 掲載の引用で確認）

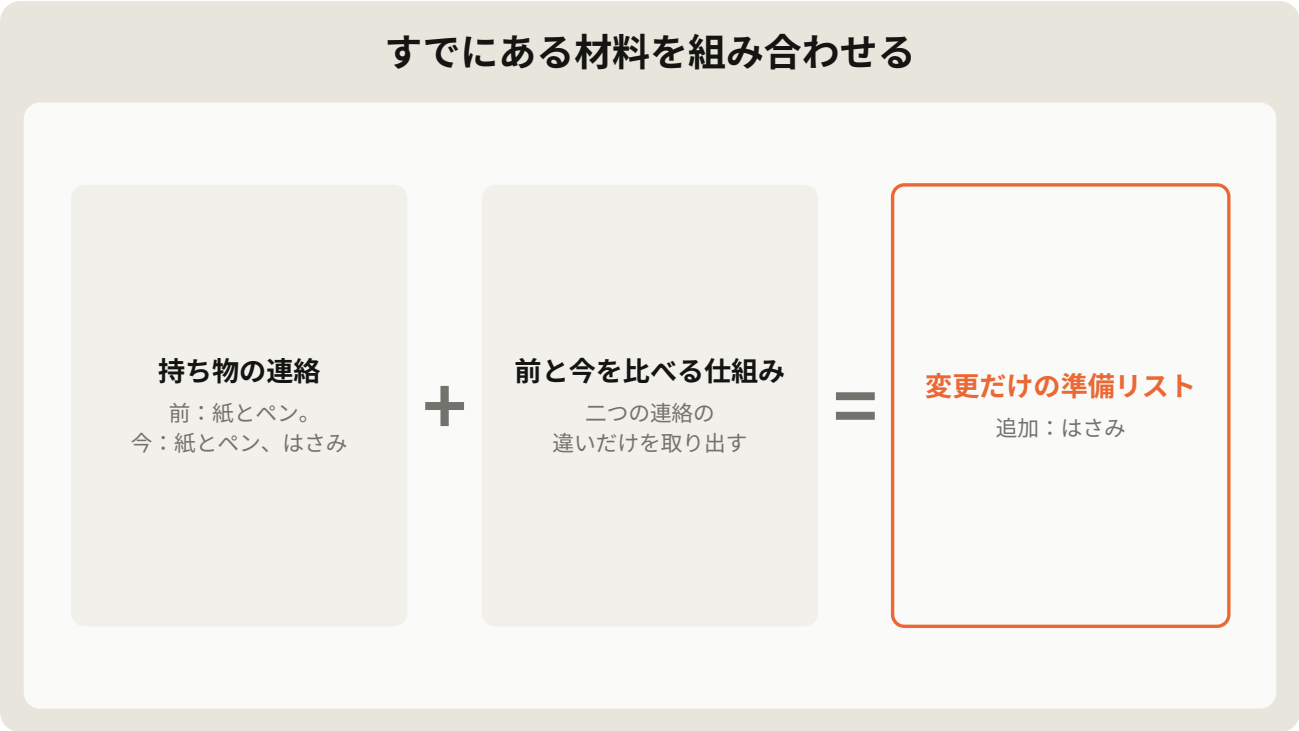


図 1：すでにある材料を組み合わせる
注：架空の例。材料を結ぶ考え方を、地域イベントの準備に当てはめた試作案です。

ヤングはもう一つ、古い要素を新しく組み合わせる力は、要素どうしの関係を見つける力に大きく左右される、とも書いています。材料には二つの種類があります。目の前の課題に直接かかわる特殊な材料と、ふだんから蓄えている幅広い一般的な材料です。

部品の名前を並べただけでは、まだ案になりません。「AI と何かを組み合わせよう」と言った時点では、考える仕事が残っています。二つを結ぶと、誰のどの手間が変わるのか。そこまで決めて、はじめて案の中身ができます。図 1 は、持ち物の連絡という身近な材料に、前と今を比べる仕組みを組み合わせた例です。

ハッカソンでは　持ち物の連絡を何度も読み返した経験から、「変更だけの準備リスト」を考えます。まずは変更前と変更後の連絡を一組用意し、何を取り出せれば役に立つかを決めます。

よくある失敗　材料を足しただけで、役に立つと決めてしまうことです。準備係が確認し直す手間を減らせるかは、試して確かめます。

その場で書く一行

私が知っている＿＿＿＿と、使える＿＿＿＿を結び、＿＿＿＿の手間を減らします。

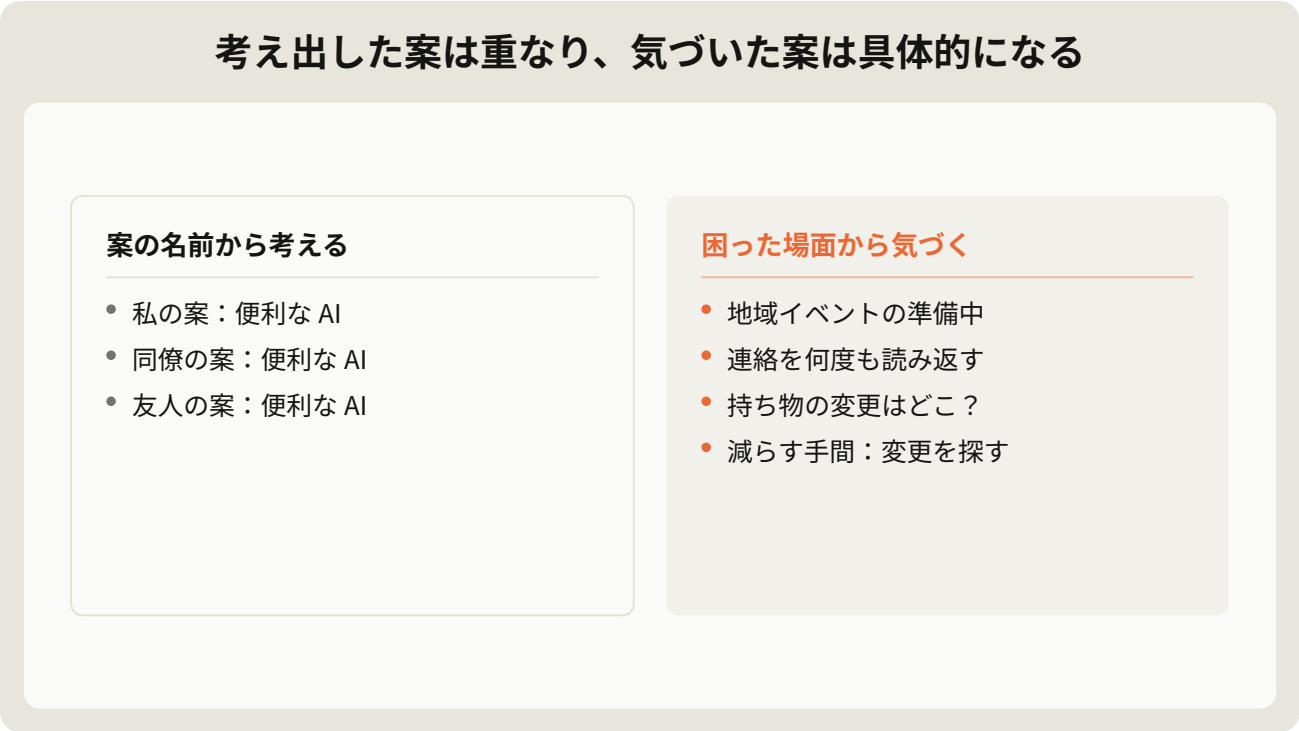


図 2：考え出した案は重なり、気づいた案は具体的になる
注：架空の例・概念図。左の集まり方はハッカソン向けの解釈で、全員が同じ案になるとは限りません。

考え出すより、気づく

ゼロから案を考えると、案は似たところに集まります。「AI で何か便利なものを」と考え始めると、多くの人が同じような名前の案にたどり着きます。

グレアムはスタートアップの案についてこう書いています。

> The verb you want to be using with respect to startup ideas is not “think up” but “notice.”
>
> 訳：スタートアップのアイデアに使いたい動詞は、「考え出す」ではなく「気づく」です。
>
> Paul Graham「How to Get Startup Ideas」（2012）

グレアムが勧めるのは、案を考えようとすることではなく、問題を探すこと、それもできれば自分自身が抱えている問題を探すことです。自分の問題なら、その問題が本当にあると分かるからです。机の上で作った案はもっともらしく聞こえても、実際には誰も欲しがらないことがあります。グレアムはこうした案を「作り話の（sitcom）アイデア」と呼びました。

図 2 の左は案の名前から考えたときの様子を、右は困った場面から考えたときの様子を描いた概念図です。

ハッカソンでは　「AI で何か便利なものを」から、直近の記憶へ戻ります。イベントの準備中、どの連絡をなぜ読み返したかを思い出すと、作る道具の対象を絞れます。

よくある失敗　「便利そう」と言われただけで、使う人がいると決めることです。似た場面で実際に困った人に、最後にどう対処したかを聞きます。

その場で書く一行

私は＿＿＿＿の場面で、＿＿＿＿をするとき、＿＿＿＿を確認し直しました。

差がつくのは、現場の材料

ハッカソンの参加者は、ほぼ全員が AI を使えます。プロンプトの書き方やツールの組み合わせ方は、会場の誰もが持っている材料です。本資料ではこれを、ヤングの言う一般的な材料にあたるものと考えます。

差がつくのは、自分にしかない材料です。仕事、育児、介護、地域の活動。実際に手を動かして知ったことは、外の人からは見えません。そこで出会った面倒は、検索しても出てこない材料になります。

これは、グレアムが自分の問題から始めるよう勧めた理由とも重なります。現場にいる人は、その問題が本当にあることを知っています。

ハッカソンでは　自分の現場で、外の人が知らない面倒を一つ書き出します。思いつかなければ、この一週間で同じ確認を二度したことを探します。

よくある失敗　AI の機能から考え始め、現場の材料を後から当てはめることです。順番を逆にして、面倒を先に書きます。

その場で書く一行

私の現場では＿＿＿＿のとき、外からは見えない＿＿＿＿が起きています。

似たものが見つかったら、やめるべきか

案を調べて似たものが見つかると、そこで手を止めたくなります。グレアムの答えは「止めなくてよい」です。

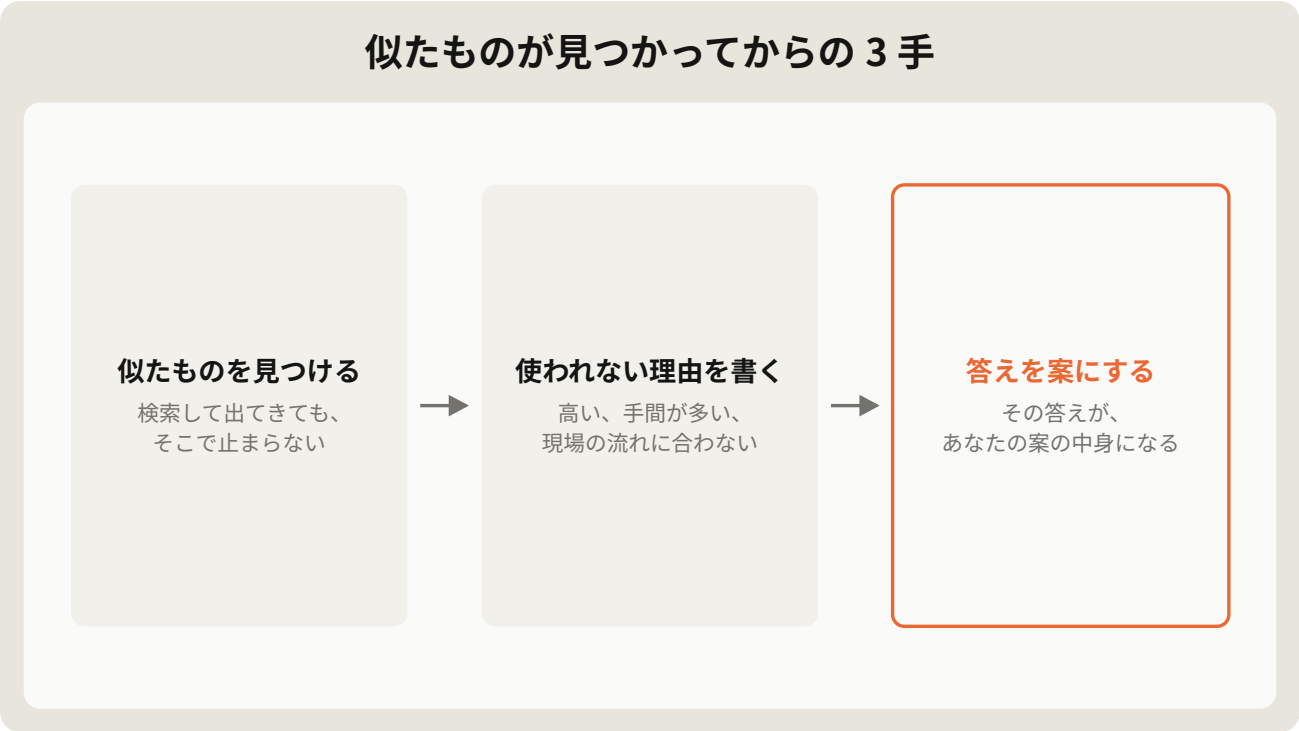


図 3：似たものが見つかってからの 3 手
注：3 手の流れは本資料の解釈です。

> Even if you find someone else working on the same thing, you're probably not too late.
>
> 訳：同じことに取り組んでいる人が見つかっても、たぶん手遅れではありません。
>
> Paul Graham「How to Get Startup Ideas」（2012）

グレアムは、よい案はあとから見ると当たり前に思えるので、持った本人は遅れたと感じやすい、とも書いています。混み合った市場はむしろよい兆しだとも言います。需要があり、しかも既存の答えがどれも十分ではないことを示すからです。

似たものが見つかったら、図 3 の 3 手を打ちます。見つけたもので止まらず、それが使われていない理由を書き、その理由への答えを案にします。

ハッカソンでは　似たものの名前と、それを使っていない人の理由を並べて書きます。理由が書けないときは、自分がそれを使わない理由から始めます。

よくある失敗　似たものの機能を一つずつ足して、上位版を作ろうとすることです。広がらない理由が機能の数でなければ、機能を足しても同じところで止まります。

その場で書く一行

似たものに＿＿＿＿があるが、＿＿＿＿だから広がっていない。

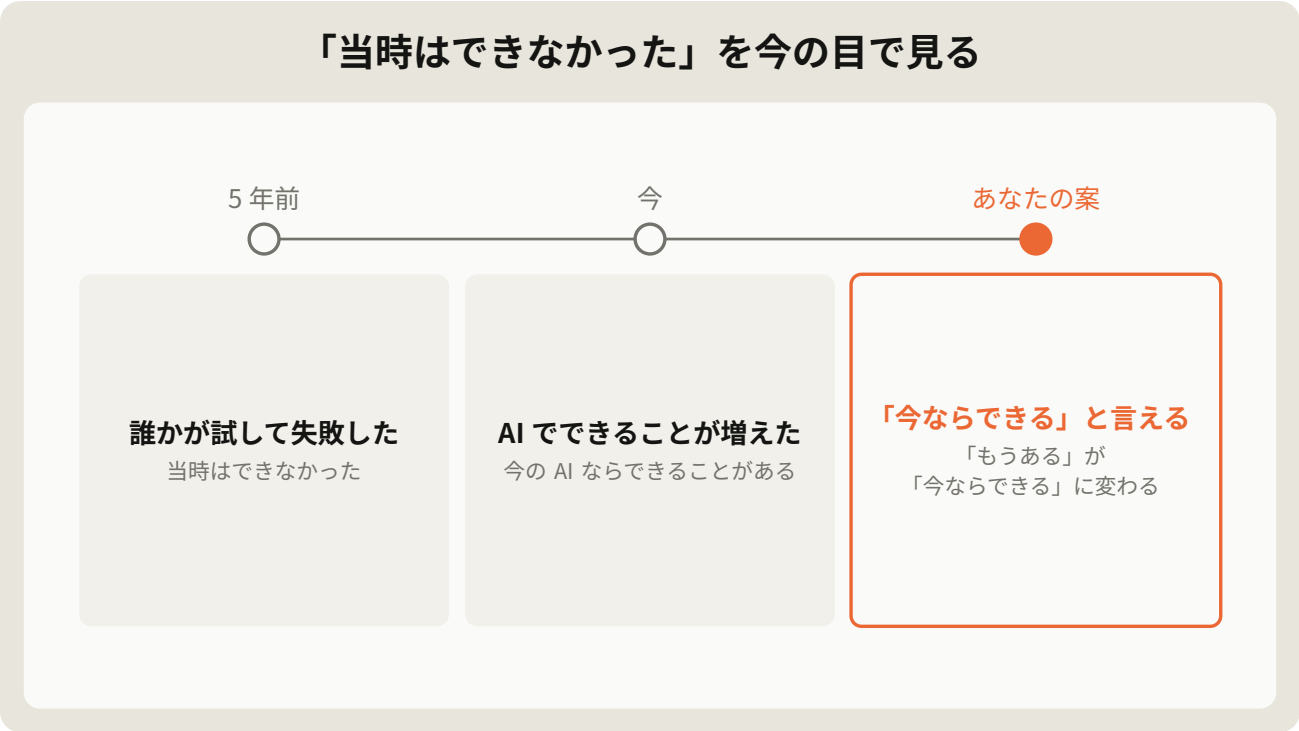


図 4：「当時はできなかった」を今の目で見る
注：概念図。昔の失敗例を見直す使い方は本資料の解釈です。

昔の失敗を、今の AI で見直す

5 年前に誰かが試して、うまくいかなかった案があります。当時はできなかったことでも、今の AI ならできることがあります。

グレアムは、変化の速い分野の最先端にいる人は「未来に住んでいる」というポール・ブクハイトの言葉を引き、こうまとめています。

> Live in the future, then build what's missing.
>
> 訳：未来に住み、そこに足りないものを作ってください。
>
> Paul Graham「How to Get Startup Ideas」（2012）

そのうえでグレアムは、数年後の世界で何ができるようになるか、まもなく可能になるのに無意識のうちに不可能だと決めつけていることは何か、と問うよう勧めます。

昔の失敗例を今の目で見直すことは、この問いの一つの使い方です。ここは本資料の解釈で、グレアムが失敗例の見直しを勧めているわけではありません。

ハッカソンでは　自分の案に似た、昔の失敗例を一つ探します。失敗の理由のうち、今の AI で変わったものに印をつけます。

よくある失敗　失敗の理由をすべて AI で解けると考えることです。人が使い続けない理由のように、技術では変わらない理由も残ります。



図 5：広く浅い穴と、狭く深い井戸
注：概念図。グレアムの「井戸」の比喩を図にしたものです。

その場で書く一行

今は AI で＿＿＿＿ができるようになったので、＿＿＿＿を作る。

広く浅くより、狭く深く

グレアムは、作るものを選ぶときの比喩として穴の掘り方を挙げています。

> You can either dig a hole that's broad but shallow, or one that's narrow and deep, like a well.
>
> 訳：広いが浅い穴を掘ることも、井戸のように狭く深い穴を掘ることもできます。
>
> Paul Graham「How to Get Startup Ideas」（2012）

多くの人が少しだけ欲しいものと、少数の人がとても欲しいもののどちらかを選ぶなら、後者を選ぶようグレアムは勧めます。後者の形をした案がすべてよい案とは限りませんが、よい案のほとんどは後者の形をしている、というのがその理由です。

ハッカソンの発表でも同じことが言えます。大勢の小さな便利より、1 人の大きな変化のほうが伝わります。



図 6：アイデアが生まれる 5 段階を、ハッカソンの日程に置く
注：5 段階はヤングによる。日程への割り振りは本資料の解釈です。

ハッカソンでは　届けたい相手を、名前を思い浮かべられる 1 人に絞ります。その人の 1 日のどの場面が変わるかを書きます。

よくある失敗　審査員に広く受けそうな相手を選ぶことです。誰にでも少し便利な案は誰の場面も変えません。

その場で書く一行

_____（具体的な 1 人）は、_____（場面）で、_____に困っている。

ひらめきは、寝かせた後に来る

ヤングは、アイデアが生まれる過程を 5 つの段階に分けました。材料を集める。集めた材料を噛みくだく。いったん問題から離れ、無意識に任せる。ひらめく。そして現実の条件に合わせて練り直し、人の批判にさらす。

当日の数時間で、この 5 段階をすべて行うのは難しいことです。本資料では段階をハッカソンの日程に割り振ります（図 6）。

ハッカソンでは　前の週から、困った場面のメモを溜めます。前の晩は案を考え続けず、ちゃんと寝ます。当日は、チームの外の人に案を 30 秒で話し、反応を見ます。

よくある失敗　会場に着いてから、初めて考え始めることです。噛みくだく時間も、手放す時間も残りません。

最後に、3 行で書く

ここまでの一行を 3 行にまとめます。埋まらない空欄があれば、そこが次に調べる場所です。

3 行の型

_____（具体的な 1 人）は、_____（場面）で、_____に困っている。

似たものに_____があるが、_____だから広がっていない。

今は AI で_____ができるようになったので、_____を作る。

1 行目が埋まらなければ、「考え出すより、気づく」と「広く浅くより、狭く深く」に戻ります。2 行目が埋まらなければ「似たものが見つかったら、やめるべきか」に、3 行目が埋まらなければ「昔の失敗を、今の AI で見直す」に戻ります。

「もうある」は、やめる理由ではなく出発点です。3 行が埋まったら、あとは作って、試して、人に見せるだけです。

引用するとき

```
@misc{okamoto2026hackathon,
author = {岡本 賢},
title = {ハッカソンのアイデアの作り方},
howpublished = {Claude Community Tokyo},
year = {2026},
month = nov
}
```

この資料について

Built with Claude: Japan 2026 の参加者に向けて作りました。英語の引用はすべて原文または掲載元で文言を確かめ、訳は本資料によるものです。「ハッカソンでは」から後ろの使い方、失敗例、一行の型、図の例は、原典をもとにした本資料の解釈と架空の例で、原典の主張ではありません。構成と図は Claude と一緒に作りました。

出典

Graham, Paul. 2012. “How to Get Startup Ideas.” November 2012. https://paulgraham.com/startupideas.html

Young, James Webb. 1940. A Technique for Producing Ideas. 邦訳『アイデアのつくり方』（1988）。引用と 5 段階の要約は Farnam Street の掲載で確認。https://fs.blog/a-technique-for-producing-ideas/